

(5) 東海



東海地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費は一部に回復の動きが残っているもののおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

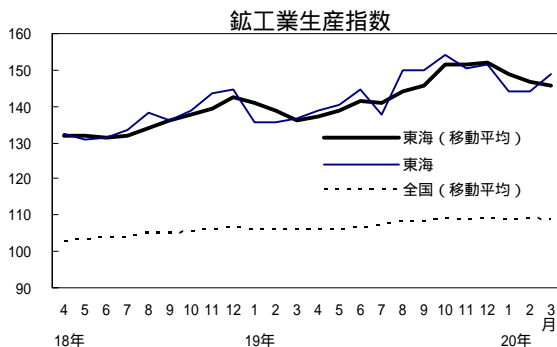
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年2月）	今回（平成20年5月）	
景況判断	力強く回復	回復	
鉱工業生産	堅調に増加	堅調に推移	
個人消費	緩やかに回復	一部に回復の動きが残っているもののおおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

輸送機械は、乗用車や自動車部品の輸出がアジア、中東向けを中心に好調であったため高水準で推移しているものの、国内向けは新型車効果の続く普通車を除き低迷したことから、減少している。一般機械は、金属工作機械が、欧州、アジア向けに、好調だったものの、運搬機械を中心に減少している。電気機械は、内燃機関電装品や電動機、制御機器が自動車関連向けを中心に堅調だったものの、開閉制御装置・機器を中心に減少している。窯業・土石は、ファインセラミックスが自動車向けを中心に堅調だったが、タイルが建築需要の低下により、食器・台所用陶磁器が安価な輸入品に押されて低調に推移したことから減少している。化学は、自動車関連向けが好調だったことなどから、堅調に推移している。電子部品・デバイス、液晶素子はテレビ向けが好調なもの、携帯電話向けの需要が低調だったため、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	33.9	6.8	4.4	4.2	32.2
一般機械	11.3	0.6	3.3	7.1	0.8
電気機械	7.3	3.8	3.5	4.7	0.0
窯業・土石	6.1	2.5	2.3	2.2	0.7
化学	5.4	1.1	1.9	1.7	0.0
鉱工業	100.0	4.3	4.2	4.8	0.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

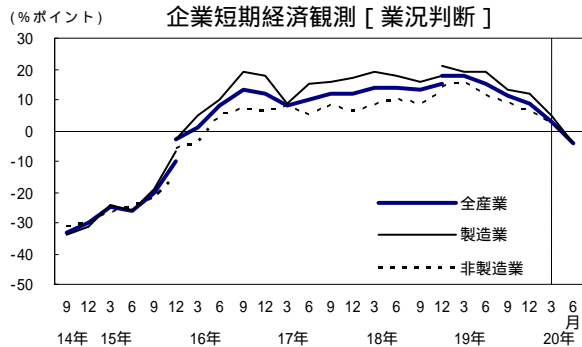
(備考) 1. 季節調整値。

2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

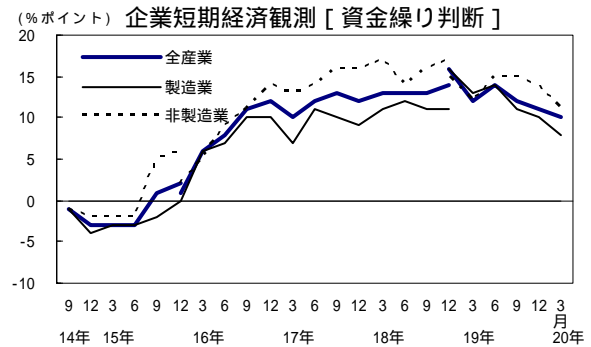
3. 東海は12年基準、全国は17年基準。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

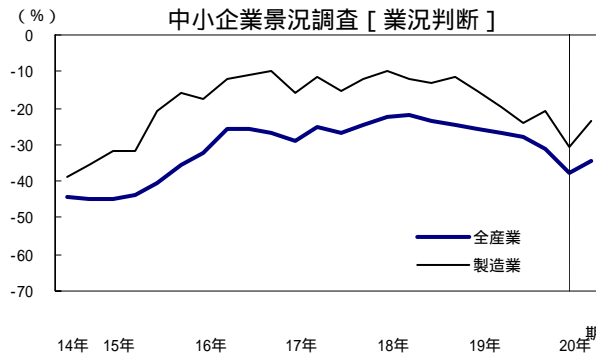
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

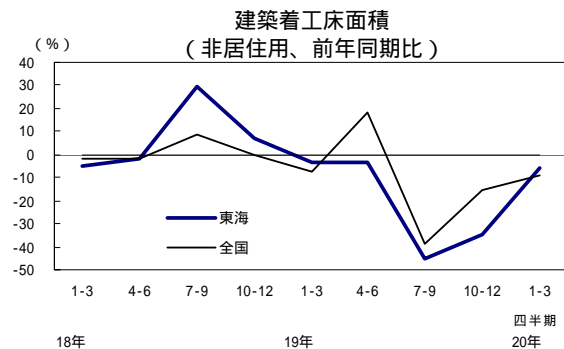
「受注量は従来より2割ほど減少しており、最近5年間で最低である。今年に入ってから、減少の一途である(窯業・土石製品製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績見込み	20年度値
全産業	8.2 [8.7]	0.1
製造業	1.6 [2.0]	1.2
非製造業	21.2 [20.4]	1.7

(備考)[]は前回(12月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は一部に回復の動きが残っているもののおおむね横ばいとなっている。

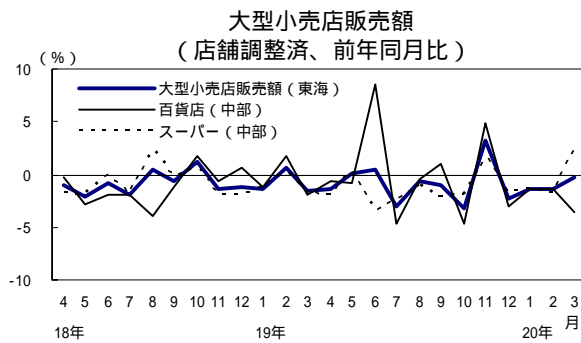
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、福袋やセール品が売れ行きを伸ばしたものの、中旬以降は世界的な株安などを背景に時計・宝飾品など高額品が不調で、前年を下回った。2月は、バレンタイン商戦が堅調であったが、低温で春物衣料の動きが鈍かったため、うるう年であったにもかかわらず前年を下回った。3月は、ホワイトデー需要は堅調ながら、前年の大型商業施設開業のプラス効果の反動や天候要因によりファッション関連を中心に不調で、前年を下回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の4月の売上高は、前年同月比で2.2%減となっている。

スーパーは、3月は飲食料品、衣料品共に動きがあったものの、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「主要客層である50歳以上の購買意欲が落ちてきており、特に70歳代で顕著である。今までは経済的に余裕のあった世代でも、余裕がなくなってきた(商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

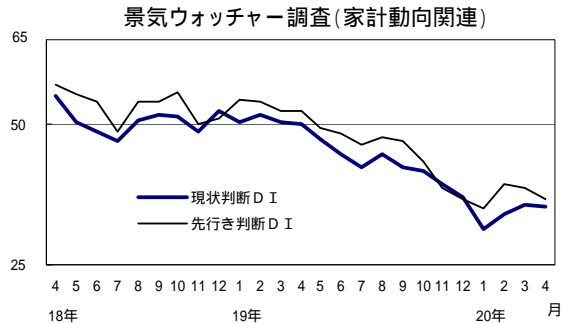
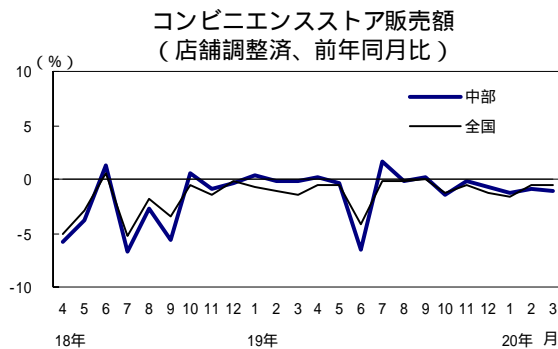


	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	0.2	1.6	0.8	1.0
百貨店	2.2	1.8	1.2	2.1
スーパー	1.7	1.9	0.7	0.3
コンビニ	2.3	0.6	0.8	1.0
景気ウォッチャー	47.3	43.2	39.3	33.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲は前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

